

農繁期

レポート

令和4年 7月号

エースファーム

オーナー	株式会社エース
水田面積	20.1アール
保証量	玄米 905kg
形態品種	特別栽培コシヒカリ



生産者 高橋 秀紀さん

例年より早く6月28日に梅雨明けし猛暑が続いていましたが、最近はまだ梅雨の様なうっとうしい天気が続いています。自然は人間の思うように成らないものです。中干しを7月8日に終了し、ほ場に水を溜め始めました。10日には稲の根を活性化させる為の肥料を散布し、出穂期を待つばかりとなりました。今月末頃から稲穂が見え始めます。これから台風シーズンに入り心配しますが、精一杯管理していきます。

7月の作業内容

1. 中干し (なかぼし)

田の水を抜いて生長を強制的に止めることを中干しといいます。土中に溜まったガスを抜いて新鮮な空気を入れ、根を地中にめぐらし健全に育てる目的と土が固めることで倒伏予防やコンバインが走りやすくなる効果もあります。



2. 間断灌水 (かんだんかんすい)

中干し後の幼穂形成期迄は3~4日掛けて水を入れ、2~3日掛けて水を抜く作業を繰り返します。土壌中に酸素を供給し根の発育を促進させるためと、穂を大きくさせる為に大量の水が必要で水は切らさないよう管理します。



3. 肥料散布 (穂肥ほごえ)

穂を発育させるための追肥。肥料の散布は基本的2回で1回目はモミの数の増やし、2回目はモミを大きくします。穂肥の量が少なければ刈取り収量が減り、多ければ窒素が残り食味を落すため施肥量の決定が難しい肥料です。



4. 電気柵の設置

年々鳥獣被害が増えてきています。電気柵の設置も早めに行うようになりました。出てくる動物の大きさにあわせて高さが変わります。鹿がでる地域は低いと飛び越えてくるので高さが必要です。

